月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切，翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします．校正をお願いしておりますので，締切日よりなるべく早めにお申込みください．
e-mailでtoukou@geppou.asj.or.jp宛にお送りください．折り返し，受領の連絡をいたします．

人事公募

東京大学 宇宙線研究所　特任助教

1. 職種および公募人員：特任助教　1名
2. 職務内容（専門分野）等：本研究所高エネルギー天体グループに所属し，主に高エネルギー宇宙物理学の理論的研究に従事することで，マルチメッセンジャー天文学を推進してもらいます．グループメンバーと協力して，成果を出していける方を希望します．
3. 勤務地：宇宙線研究所（千葉県柏市柏の葉）
4. 応募資格：雇用の時点で博士号を取得しているか，確実に取得できる見込みの者．性別・国籍・研究経歴によらず，広く関連する研究分野から活発な応募を期待します．
5. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
6. 待遇：「東京大学特定有期雇用教職員の就業に関する規程」（平成16年4月1日制定）に定める特任助教とします．同規程に基づき，給与は経歴により決定します．保険は文部科学省共済組合に加入，手当は通勤手当を支給します．
7. 任期：2026年3月31日まで
8. 就業時間：専門業務型裁量労働制により，1日7時間45分・週5日勤務したものとみなされます．
9. 休日：土・日，祝日，年末年始（12月29日～1月3日）
10. 選考：選考委員会による書類選考（第一次審査）を行い，最終選考は，面接によります．
11. 応募締切：2023年3月10日（金）正午必着
12. 応募書類：以下（1）から（5）までの書類をEメールに添付で提出してください．（6）の推薦書又は意見書は，作成者からEメールに添付で応募締切日までに提出してください．応募書類・推薦書・意見書の電子ファイル形式はpdfとします．（応募書類の提出に対しては，受信した旨の返信をいたしますので，必ず当方からの返信の有無を確認してください．）
    （1）履歴書（市販の様式相当，博士号の有無・取得見込み，電子メールアドレスを必ず記入のこと）
    （2）研究歴（A4判で3ページ以内）
    （3）業績リスト（論文リスト，研究発表リスト等），及び主要論文（3編以内）．提出する論文については論文リストに印を付け，一目でわかるようにすること．
    （4）着任可能時期
    （5）着任後の研究計画（A4判で3ページ以内）
    （6）推薦書又は意見書2通
13. その他：
    （1）「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき，女性の応募を歓迎します．
    （2）採用時点で，外国法人，外国政府等と個人として契約している場合や，外国政府等から金銭その他の重大な利益を得ている場合，外為法の定めにより，一定の技術の共有が制限され，結果として本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があります．このような場合，当該契約・利益については，職務に必要な技術の共有に支障のない範囲に留める必要があります．
    （3）試用期間あり（6ヶ月）
    （4）受動喫煙防止措置の状況：敷地内禁煙（屋外に喫煙場所あり）
14. 送付先：
    Eメール　application_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
    （メールを送信する際は_at_を@に直してください）
    件名に公募番号の「ICRR2022-13」を明記してください．
15. 問合せ先：
    東京大学宇宙線研究所　浅野勝晃
    電話04-7136-3187
    Eメール　asanok_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
    （メールを送信する際は_at_を@に直してください）
16. 募集者名称：国立大学法人東京大学

会務案内

公益社団法人日本天文学会 2023年度(2023年4月1日〜2024年3月31日) 事業計画書と予算書

2023年1月9日に開催された代議員総会において2023年度の事業計画書と予算書が承認されました．事業計画書と予算書は電子版を天文学会ホームページ（http://www.asj.or.jp）で公開しています．ホームページ上部の「日本天文学会について」の情報公開をご覧ください．

日本天文学会 2023年度事業計画書の概要

事業計画はおおむね例年どおりです．欧文研究報告・天文月報・年会予稿集・ジュニアセッション予稿集の刊行，年会の開催，各種委員会活動，全国同時七夕講演会，各賞の授与，助成金，後援事業に関する事業を行う予定です．さらに2020年度から引き続き「シリーズ現代の天文学」英語版および日本語改訂版の刊行を予定しています．2023年度募集から，研究奨励賞・早川幸男基金の応募資格を学位取得から8年以内に変更しました．また，2023年度中に代議員選挙を行います．

日本天文学会 2023年度予算書の概要

公益社団法人として，公益目的事業の適切な実施とともに，保有上限額がある遊休財産額の適正化をも考慮して予算書を作成しました．全体としては事業収益104,849千円・事業費用115,076千円と，費用が収益を上回る予定ですが，予算上最も大きな欧文報告事業では引き続き収益が費用を上回る見込みです．その他については，現会員数に基づく会費収益など，ほぼ例年どおりの経常収益です．経常費用については，電子的業務の外注費や電子的コンテンツの維持費といった長期的運用を含む定常的費用に加えて，年会のハイブリッド化，新型コロナウイルス感染症対策に必要な費用を計上しています．今後の新型コロナウイルス感染症の状況による実施形態やその費用の変更ついては，2022年度と同様に予算執行段階で適宜対応していきます．

（文責　庶務理事：町田真美，会計理事：酒向重行）

事務所からのお知らせ

【移籍・退会について】

2022年度末をもって移籍・退会希望の方で，まだ学会事務所に連絡していない方は，大至急書類のご提出をお願いいたします．当学会ホームページ「各種手続き」にある書式をご利用ください．

※退会の届け出がない限り，会員資格は年度始めに自動更新されます．会費の納入を停止しても退会とはなりません．

【会費納入について】

◆正・準会員の皆様◆

2023年度（2023年4月〜2024年3月）会費の納入期限は，2023年4月30日です．

正会員：16,000円
正会員（学生）：8,000円
準会員：8,000円
予稿集代：4,000円（予約している方）
PASJ紙版送料：2,000円（正会員の送付申請者）

・会費の口座自動引き落し登録の方は，2023年4月10日に引き落しますので口座残高不足にご注意ください．通帳には引き落し代行会社の「JCB」という文字が印字されます．
・口座自動引き落し登録のない方には，4月初旬にコンビニエンスストア専用払込票（収納代行業務はリコーリース(株)に委託しています）を郵送します．
・海外在住の方は，会費金額をご確認のうえ，クレジットカードまたは銀行振込等でご納入ください．詳しくは学会ホームページ「各種手続き」の「会費の納入」をご覧ください．

※払込票の控え，またはクレジットカード会社・金融機関の利用明細，引き落としが印字された通帳のコピーをもって本学会の領収書とさせていただきます．控えや明細書は大切に保管してください．

◆団体・賛助会員の皆様◆

4月に請求書をお送りしますので，それ以降にご納入ください．

賛助：30,000円（1口）　団体：10,000円

入会・移籍・退会のお知らせ

2022年12月24日に開催された公益社団法人日本天文学会理事会において，正式に入会・移籍が承認された方，退会が報告された方の人数をお知らせします．

入会　正会員：79名　準会員：10名　賛助会員：1団体
移籍　準会員→正会員：1名
退会　正会員：1名　準会員：1名

年会開催地立候補の募集

日本天文学会では年会開催地の決定にあたり立候補を募集いたします．詳しい内容は学会ホームページに掲載しますので，そちらをご覧ください．なお，開催地は立候補状況を見ながら理事会にて決定する予定です．皆様，奮ってご応募お願いします．

2022年度日本天文学会各賞について

2022年度日本天文学会各賞は，2023年1月9日の代議員総会において次のように決定しましたのでご報告いたします．

◇林忠四郎賞（1氏）
大須賀 健（おおすが けん）・筑波大学 教授
研究の表題「コンパクト天体周囲の降着流と噴出流の先駆的シミュレーション研究」

◇欧文研究報告論文賞（2編）
・論文題目：GOLDRUSH. II. Clustering of galaxies at $z \sim 4$—6 revealed with the half-million dropouts over the 100 deg^2 area corresponding to 1 Gpc^3
著者：Yuichi Harikane, Masami Ouchi, Yoshiaki Ono, Shun Saito, Peter Behroozi, Surhud More, Kazuhiro Shimasaku, Jun Toshikawa, Yen-Ting Lin, Masayuki Akiyama, Jean Coupon, Yutaka Komiyama, Akira Konno, Sheng-Chieh Lin, Satoshi Miyazaki, Atsushi J. Nishizawa, Takatoshi Shibuya, and John Silverman
出版年等：Vol. 70（2018）, No. SP1, article id. S11
・論文題目：Subaru High-z Exploration of Low-Luminosity Quasars（SHELLQs）. II. Discovery of 32 quasars and luminous galaxies at $5.7 < z \leq 6.8$
著者：Yoshiki Matsuoka, Masafusa Onoue, Nobunari Kashikawa, Kazushi Iwasawa, Michael A. Strauss, Tohru Nagao, Masatoshi Imanishi, Chien-Hsiu Lee, Masayuki Akiyama, Naoko Asami, James Bosch, Sébastien Foucaud, Hisanori Furusawa, Tomotsugu Goto, James E. Gunn, Yuichi Harikane, Hiroyuki Ikeda, Takuma Izumi, Toshihiro Kawaguchi, Satoshi Kikuta, Kotaro Kohno, Yutaka Komiyama, Robert H. Lupton, Takeo Minezaki, Satoshi Miyazaki, Tomoki Morokuma, Hitoshi Murayama, Mana Niida, Atsushi J. Nishizawa, Masamune Oguri, Yoshiaki Ono, Masami Ouchi, Paul A. Price, Hiroaki Sameshima, Andreas Schulze, Hikari Shirakata, John D. Silverman, Naoshi Sugiyama, Philip J. Tait, Masahiro Takada, Tadafumi Takata, Masayuki Tanaka, Ji-Jia Tang, Yoshiki Toba, Yousuke Utsumi, and Shiang-Yu Wang
出版年等：Vol. 70（2018）, No. SP1, article id. S35

◇研究奨励賞（3氏）
・木村成生（きむら しげお）東北大学学際科学フロンティア研究所 助教
研究の表題「ブラックホール天体での宇宙線加速と高エネルギー放射の理論的研究」
・野田博文（のだ ひろふみ）大阪大学大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻 助教
研究の表題「活動銀河核エンジンに関する新描像の確立と飛翔体搭載機器の開発」
・藤本征史（ふじもと せいじ）テキサス大学オースティン校　Hubble Fellow
研究の表題「電波と可視光観測による初期銀河と銀河周辺物質の新描像の提案と確立」

◇天体発見賞（2氏，8件）
・板垣 公一（いたがき こういち）氏　7件
超新星2022ameの発見，超新星2022ewjの発見，超新星2022 hrsの発見，超新星2022xlpの発見，超新星2022xxfの発見，超新星2022zzzの発見，超新星2022aeduの発見
・山本 稔（やまもと みのる）氏　1件
たて座新星の発見

◇天体発見功労賞
受賞者なし

◇天文功労賞
長期的な業績（1氏，1件）
・大金 要次郎（おおがね ようじろう）氏
「自作光電測光装置を用いた23年間にわたるベテルギウスのUBVRI測光」

短期的な業績（3氏，2件）
・森山 雅行（もりやま まさゆき）氏
「反復新星さそり座Uの2022年増光の世界初の検出」
・渡部 勇人（わたなべ はやと）氏，渡辺 裕之（わたなべ ひろゆき）氏
「小惑星ディディモスによる恒星食の観測の主導」

編集委員会より

天文月報記事投稿用アップローダー

https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_submission/
■ログイン
ユーザー名：geppou　　パスワード：toukou
■アップロードの仕方
アップロード画面で必要事項を埋めてください．するとアップロードに進むことができます．できる限りファイルは1つにまとめてください．ファイルが複数ある場合は「複数のファイルを投稿する」ボタンを押してください．押すたびに欄が増えます．
1回あたり全部で最大50 Mbyteまで，個数は20個まで送信できます．それ以上の巨大なファイルのアップロードは推奨されませんが，やむをえない場合は分割してお送りください．
■注意
投稿者の個人の認証はcookieを利用しています．
したがってcookieを受け取らないブラウザでは使えません．
またフォームのチェックや可変個数のアップロードボックスはjavascriptを利用していますのでjavascriptが使えなければこのアップローダーは使えません．
その場合はtoukou@geppou.asj.or.jpまでメールでご投稿ください．
■連絡先
アップローダーに関するご質問はtoukou@geppou.asj.or.jpまでお願いします．

（天文月報編集長）

天文月報記事ご執筆用テンプレート（SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀）

ご執筆にあたりましては，日本天文学会HP内「天文月報」のページにあります「投稿用テンプレート」をご活用ください．
https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_template/
（URLが変わっています．ご注意ください．）
texで執筆される方はtexテンプレートをオンライン上またはダウンロードしてご利用ください．MSWordで執筆される方はwordテンプレートをダウンロードしてご利用ください．また，ご執筆の前に必ず「執筆マニュアル」をご一読ください．
https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_manual/
（URLが変わっています．ご注意ください．）
texをご利用される場合は，あわせてreadmeもお読みください．

訃　　報

会員の齋藤修二氏は2022年8月31日に逝去されました．満84歳でした．ご冥福をお祈り申し上げます．

会員の藤井旭氏は2022年12月28日に逝去されました．満81歳でした．ご冥福をお祈り申し上げます．

当学会で1969–1970年度に会計理事を，東京大学退官後は約20年にわたり欧文研究報告のコピー編集を務められた近藤雅之氏は2022年12月15日に逝去されました．満90歳でした．心よりご冥福をお祈り申し上げます．

星空市場

［意見］
重さは質量ではない

天文学者は天文啓蒙書に「太陽の質量（重さ）は地球の33万倍」と書いたり，天文講演会で「ブラックホールの重さは地球の百億倍」と言ったりする．質量という言葉は日常あまり使わないので言い慣れた「重さ」で代用したのであろうが，これは問題だ．「フォトサイエンス物理図録」数研出版p. 19（2007）によれば，質量は物体の慣性の大きさを表す量で（中略）重さは質量m［kg］の物体に働く重力の大きさW［ニュートン，N］で，その値はW＝mg（g：重力加速度の大きさ）である．

反対に，「質量は重さに等しい」と書いた理科の教科書は見たことがない．結局，天文学者は誤りを教えているのである．質量は物体に固有な属性で，環境によって変わるものではない．

2002年版「理科年表」p. 801の重力式（1980）によれば，赤道でのg＝978.033 galで，極ではそれより1/189（＝0.53％）大きいに過ぎない．

もし地球の自転速度が現在の何十倍も早かったらg＝一定の仮定は成り立たなくなる．国際宇宙ステーション内で宇宙飛行士が無重量空間でフワフワ浮いているのをたびたび目撃するようになり，質量と重さの違いが世に容れられる傾向になって来たのは喜ばしい．

（Nov. 19, 2022）

（佐藤明達　東京都葛飾区）

★コロナ禍の特別対応であったオンライン版の全記事公開は，今号をもって終了いたします．
4月号以降は一部の記事をオンライン版限定公開といたします（発行後一年間）．
限定公開記事を読むには，以下のIDとパスワードが必要になりますのでご注意ください．

天文月報オンラインのIDとパスワード
ID: asj 2023
パスワード：雑誌コード（5桁の数字）と **vol116**（6文字）の計11文字を入力してください．「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○―▲」の○○○○○の部分です．○○○○○は各号共通の数字です．

編集委員：江草芙実（委員長），市川幸平，岩井一正，岩﨑一成，小高裕和，小野寺仁人，嘉数次人，勝田哲，川中宣太，津村耕司，西澤淳，西塚直人，秦和弘，福井暁彦，仏坂健太，前原裕之
令和5年2月20日　発行人　〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1　国立天文台内　公益社団法人　日本天文学会
印刷発行　印刷所　〒162-0801 新宿区山吹町332-6　株式会社　国際文献社
定価733円（本体667円）　発行所　〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1　国立天文台内　公益社団法人　日本天文学会
Tel: 0422-31-1359（事務所）／0422-31-5488（月報）　Fax: 0422-31-5487　振替口座00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト https://www.asj.or.jp/　月報編集e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp
会費には天文月報購読料が含まれます．

©公益社団法人日本天文学会2023年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）